

実施計画別 外部評価結果

実施計画	砂像のまちとつとりの推進
担当課	鳥取砂丘・ジオパーク推進課
手段	砂の美術館の運営

総評	継続実施していただきたい
<p>砂の美術館は毎年50万人近くの入館者があり、その経済波及効果も100億円を超えるなど、鳥取市を代表する観光スポットの一つとして大きな存在になっていると思われる。しかし、多くの集客があるとはいえ、入館者数の推移を見ると、平成25年度は55万5355人、平成26年度は46万4337人、平成27年度は47万9117人、そして直近の平成28年度は44万8138人と、やや減少傾向がみられる。</p> <p>今後は、砂の美術館単体での集客のみならず、砂丘周辺の自然環境を活かしたエリア全体の振興を図っていただきたい。また市内の他の観光スポットとの連携など、市民や企業と協力した、より一層の展開を期待する。</p>	

意見・提言	
1	砂の美術館自体は年間50万人近くの集客がある観光施設であり、単独の施設としては観光面に貢献しているものと思われる。オープンしてから数年経ち、今後は砂丘エリアをどう発展させていくのか、また鳥取市内の他の施設や飲食店、宿泊施設とどうつなげて観光振興していくのかの全体像を考える時期に差し掛かっているものと思われる。
2	観光客を迎えるにあたって、砂像というものを市民自身がPRできるように、また未来の砂像彫刻家の後継者育成のため、砂像文化を市民に根付かせる取り組みを広げていくことが必要と考える。